

第359回  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
《プログラム》

日時：平成23年9月10日(土)午後4時00分  
会場：ホテルニューオータニ長岡2階『柏の間』  
長岡市台町2丁目8-35 0258-37-1111

次回 第360回新潟地方会予告

日時：平成23年12月10日(土)午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成23年11月11日(金)

すべてPCのみの発表とさせていただきます。  
口演時間は、7分、討論3分(時間厳守)

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025(227)2289 / FAX：025(227)0784

会長 高橋公太

### 1. 酸性尿酸ナトリウム結石の1例

立川総合病院泌尿器科

山口峻介, 武田啓介, 村山慎一郎, 上原 徹

症例は58歳の女性。右下腹部痛にて発症したX線陰性の右尿管結石に対しTULを行い、結石成分は酸性尿酸ナトリウム95%以上であった。本邦では希有な成分の尿路結石症例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

### 2. PSA 13190 ng/ml を呈した前立腺癌腹腔内巨大転移の1例

刈羽郡総合病院 泌尿器科<sup>1)</sup> 同 内科<sup>2)</sup>

白野侑子<sup>1)</sup>、羽入修吾<sup>1)</sup>、高橋祥史<sup>2)</sup>

73才男性、吐血を主訴に当院内科入院。2年前、近医で腹腔内腫瘍に対し開腹生検が行われ、何らかの腺癌(詳細不明)の診断でTS-1を内服しており、それによる十二指腸、胃粘膜障害であった。精査目的で測定したPSAが13190ng/mlであり当科紹介となった。直腸診で前立腺左葉に硬結を触れ、前立腺針生検の結果GS4+5=9、前立腺癌T4N2M1cであった。ピカルタミドとLH-RH agonistを開始するとPSA 1636→47.9→4.4 ng/mlへと低下した。CT上、巨大充実性腫瘍は著明に縮小した。一般内科医にもPSAの重要性をさせていただくことが必要と考える。

### 3. 当院での再燃前立腺癌に対するドセタキセル施行症例の検討

新潟労災病院 鳥羽智貴、小池 宏

【目的】当院での前立腺癌に対するドセタキセル療法の有効性と有害事象について検討した。【対象】2008年1月から2011年7月までに再燃前立腺癌に対しドセタキセル療法を行った12例を対象とした。年齢は60-74(中央値69)歳、初診時PSAは6.3-1894(中央値266.9)ng/ml、治療前PSAは1.1-472.1(中央値46.0)ng/ml、70-75mg/m<sup>2</sup>で3-4週間サイクルを基本とした。投与回数は1-13(中央値8)回であった。【結果】8例でPSAの低下を認め、うち6例で50%以上の低下を認めた。有害事象はGrade3以上の白血球or好中球減少を6例に認めたが、発熱性好中球減少症は2例であった。【結論】再燃前立腺癌に対してのドセタキセルによる化学療法は外来でも比較的安全に施行可能である。

### 4. 転移性腎盂尿管腫瘍の2例

長岡赤十字病院

安楽 力、鈴木一也、米山健志、森下英夫

転移性腎盂尿管腫瘍は比較的稀で、本邦ではこれまで100例程度が報告されている。血行性、リンパ行性に転移し90%以上に他臓器転移を認める極めて予後不良な病態とされている。われわれが経験した腎盂尿管へ単独転移を認めた2例(前立腺癌の尿管転移の1例、肺癌の腎盂転移の1例)について、若干の考察を加えて報告する。

## 5. 当院におけるデュタステリド使用の経験

長岡中央総合病院 泌尿器科

高橋英祐 秋山さや香 照沼正博

デュタステリドを投与した39例について検討した。24週時点ではIPSSは16.88から12.21 ( $p<0.01$ )、QOLスコアは3.89から2.89と改善した ( $p<0.05$ )。PSA値は6.19ng/mlから3.84 ng/mlと低下 ( $p<0.01$ )、前立腺体積は56.42 g から50.66 g と縮小した ( $p<0.05$ )。IPSSが3pts以上改善した症例は12週で29%、24週で41%であった。

## 6. 20世紀末の前立腺癌の転帰について

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科<sup>1)</sup>、渡辺クリニック<sup>2)</sup>、新潟南病院泌尿器科<sup>3)</sup>  
斎藤俊弘、田所 央、小林和博、北村康男<sup>1)</sup>、渡辺 学<sup>2)</sup>、小松原秀一<sup>3)</sup>

前立腺癌は自然史が長く、治療成績の検討には長期観察が重要となる。しかし、実際は観察期間の短い症例が多数含まれる報告が多く、そこに様々なバイアスが入る余地がある。今回我々は観察期間を重視し、治療開始が20世紀で、治療開始時のStage、PSAおよびGleason scoreの記載がある292例の治療成績の検討を行った。疾患特異的10年生存率はStage Aで100%、Stage Bで96.1%、Stage Cで80.7%、Stage Dで23.7%であった。

## 7. 新潟県前立腺がん検診 平成21年度の結果と主要地域別の推移

新潟県前立腺がん検討委員会

小松原秀一、西山 勉、波田野彰彦、斎藤俊弘、森下英夫、羽入修吾、片山靖士、片桐明善

平成21年度は検診対象者数201,574、受診者数(率)27,900(13.8%)、要精検者数(率)2,274(8.2%)、精検受診者数(率)1,568(69.0%)、がん数154、発見率552.0(人口10万対)、早期がん割合71.4%であった。県内主要地域別の検診結果の推移を報告する。また最近行った検診精度調査についても言及する。

17:10～17:25

前立腺癌症例登録のお願い

新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野 西山 勉

[ 休憩 17:25～17:40 ]

# サテライトセミナー

日時：平成23年9月10日（土）

17時40分～18時50分

会場：ホテルニューオータニ長岡 2階『柏の間』

17：40～17：50

製品紹介

「排尿障害改善薬フリバス錠について」

旭化成ファーマ（株）学術担当者

17：50～18：50

座長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野  
教授 高橋 公太 先生

「小児腎移植の歩みと現況」

講師 東京女子医科大学 腎臓小児科  
教授 服部 元史 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会  
旭化成ファーマ株式会社

サテライトセミナー終了後、懇親会となります。